

2026年5月8日

DENSO KOBELCO SARD GR Supra 第2戦富士、逆襲の4位フィニッシュ



SUPER GT 第2戦富士レポート

2026 SUPER GT 第2戦「FUJI GT 3Hours RACE GW SPECIAL」(5/3-4)

富士スピードウェイ(1周4.563km)

入場者数：予選33,300名、決勝50,300名 合計83,600名

5月4日(祝・月)、五月晴れとなった中、SUPER GT第2戦「FUJI GT 3Hours RACE GW SPECIAL」の決勝が行われ、12番グリッドからスタート担当の関口が、序盤はチャンスを伺い、ステイメント終盤に速いペースで8位にポジションアップ。オーバーカット戦略のフルプッシュで43周してピットインすると素早いピットワークでサッシャが戦列に復帰。7位に順位を上げ、3位から連なる集団に加わる快走をみせた。81周で2回目のピットイン、短い給油時間とダブルステイメントを敢行。ドライバーの速さと戦略の巧みさで4位に浮上すると3位23号車を追いかけて一進一退の攻防ののちに109周目に2秒差に迫ると表彰台を奪取すべく更にフルプッシュ。あと1秒差に追いついた115周で惜しくもチェッカーで、逆襲の4位フィニッシュとなった。ドライバーポイントは8点を獲得しランキング6位、チームポイントは11点を獲得しランキング5位となった。今季セパン大会中止により、次戦は8月1日(土)・2日(日)に富士スピードウェイにて開催される。

■ 事前情報

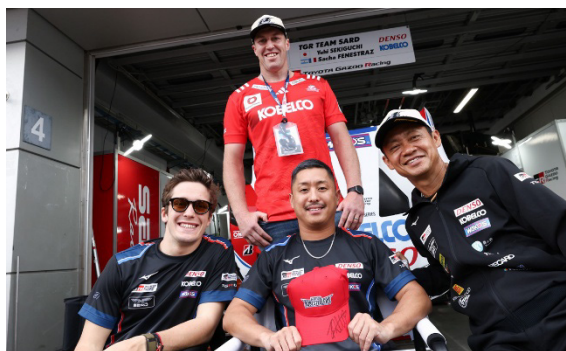
開幕戦岡山では最後まで諦めない走りで行きつけ、5位フィニッシュを果たしたDENSO KOBELCO SARD GR Supra。第2戦の舞台は恒例のゴールデンウィーク開催となる富士スピードウェイ。5月3日(祝・日)午前公式練習、午後ノックアウト方式(Q1、Q2)の公式予選、4日(祝・月)決勝は14時スタート。レースは3時間の時間制で争われ、給油を伴うピットストップは2回が義務付け。フルで約118周ほど周回すると見込まれる。1人のドライバーの最大運転時間は2時間まで。サクセスウェイトは現獲得ポイントの倍となる12kgを搭載する。重量増による富士でのタイムの落ち込みは、12kgだと約0.2秒弱。タイヤの持ち込みセット数は、ドライ6/ウェット8セット(うち1セットはヘビーウェット対応用)で決勝スタートまで使うドライのマーキングは6セットとなる。



本大会では公式画像にDENSO KOBELCO SARD GR Supraが描かれるなど期待は高く、シリーズの中でも最も観客動員数の多いイベント。GT500クラスではストレートエンドでの最高速度は約300km/hに達し、約1.5kmの世界屈指のロングストレートからのTGRコーナー(T1)でのブレーキング争いが見物。パッシングポイントとなるコカ・コーラコーナー(T3)、ダンロップコーナー(T10)での先陣争いも迫力があり、見所の多いダイナミックなサーキット。標高は約580mで高低差は40mあり、山麓に位置することから天候の行方も注意したいところ。今回は長丁場の3時間レースであり、各チームとも高度で緻密な戦略と、それを遂行するチーム総合力が要求されるが、天候や運も味方につけたいところ。脇阪寿一監督のもと、チーム一丸に意志を強く持ち、迷い無く思い切って決断し、剛毅果断に勝利へ向かって突き進んでいった。

■公式練習走行

3日(祝・日)10時30分から開始された公式練習走行は、気温22度/路面温度34度の曇り。最初の60分間の混走セッションでは関口が路面の安定を7分ほど待ってから、持ち込んだ中でソフト側のドライタイヤを装着してクルマとタイヤのチェックを行い、4周目に1分29秒269でその時点で6番手タイム。路面状況はあまり良くないものの、クルマは安定しておりニュートラルな感じと関口がコメント。赤旗中断を挟み、少しのセット調整の後にサッシャが13周目からそのままのタイヤで決勝へ向けたロングラン評価メニューに移行。ペース良く安定した走りの良いデータを取得した。FCYテストを挟んだ混走セッションはトータル33周を走り込み、関口が4周目にマークした1分29秒269のタイムのままで10番手となった。



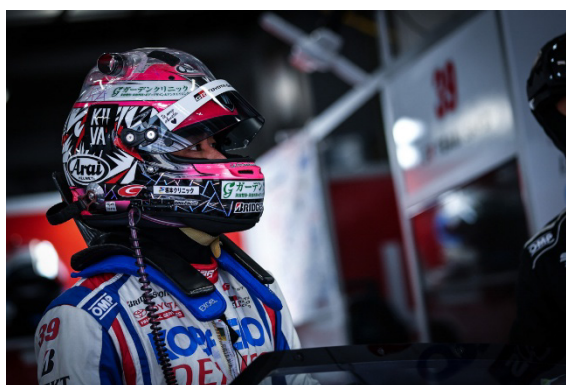
10分間のGT500単独セッションでは気温25度/路面温度39度に上昇。サッシャが新品のソフト側のドライタイヤを装着して予選のアタックシミュレーションを6周にわたって実施。丁寧にタイヤを温めていき4周目に1分28秒006と1番時計。続く、5周目もアタックを試み、セクター1でコンマ1秒、セクター2では気負いすぎたかタイム更新ならず、セクター3で若干タイムを削ったが4周目ラップタイムを更新ならず。4周目の1分28秒006で2番手タイムとなった。12時10分から行われたサーキットサファリでは再び決勝を見据えたプログラムで7周ほど走行。午前中のセッションは手応えのあるフィーリングで無事に終了した。

現在ジャパンラグビー リーグワン 2025-26 ディビジョン1のランキング1位のコベルコ神戸スティーラーズ・キャプテンのプロディレタリック選手が応援に駆けつけ、ピットワークにて関口/サッシャ両選手、脇阪監督をはじめチームとの親交を深めた。

■公式予選

■Q1：関口が僅差のQ1でまさかの12番手タイム

3日(祝・日)14時53分から開始されたQ1は曇りで気温20度/路面温度26度と下がり始め、風も強くなったコンディションの中、早めにピットを出た関口は、決勝日の天候も見据えたタイヤ選択でソフト側のタイヤを装着。アウトアップは丁寧に熱を入れ、2周目からウェービングやブレーキングなどでタイヤの芯までしっかりタイヤを温めるウォームアップを4周実施し、5周目にアタックを開始。セクター1ではトップクラスの上位区間タイム。続くセクター2で若干遅れ。セクター3でも他車に遅れを取ってしまい、この時点で6番手。6周目もアタックを続け、1/100秒単位で各セクタータイムを削ってきたが、全体的にクルマのフィーリング自体は良かったものの、午前中からのコンディション変化に合わせきれず、特に6周目セクター3で他車に遅れをとってしまい、非常に僅差のQ1で1分27秒329の記録。まさかの12番手タイムでコンマ3秒足りずにQ2進出を逃す結果となった。



■決勝

■ウォームアップ走行

4日（祝・月）12時30分から開始された20分間のウォームアップ走行は、気温23度/路面温度43度で曇り空から晴れ間も見え始め、五月晴れとなっていた。最初に関口が5周走行。続いてサッシャが6周目から最後まで走行。ウォームアップはトータル11周を走行して、サッシャが10周目にマークした1分30秒270の2番手で決勝への準備を手応え復活の感で整えた。

■決勝レース

第1ステイント：関口がオーバーカット戦略でポジションアップ

4日（祝・月）、青い空も広がり五月晴れとなった14時決勝スタート時点は気温24度/路面温度44度に。12番グリッドからスタートを担当した関口が、序盤はスタートタイヤとなったソフト側は路温レンジ的には厳しくはなかったが、次第に路気温が下がればチャンスが訪れると読み、燃料をセーブし虎視眈々とチャンスを伺いながら前に食らいついていく展開。28周目頃から他車に比べてペースが良くなり、ステイント終盤には速いペースで8位にまでポジションアップ。上位がピットインして前が空きフルプッシュで34周目に7位100号車を攻略すると好ペースを維持してピットのタイミングを探った。オーバーカット戦略で1回目のピットインを引っ張り、ステイアウトでフルプッシュを続ける関口は、43周を終えてサッシャと交代すべく、ピットに滑り込んだ。



第2-3ステイント：サッシャがダブルステイントの猛追の走りで4位フィニッシュ

定評のトップクラスの素早いピットワークでサッシャを戦列に送り出すと7位に順位を上げ、3位から連なる集団に加わる快走をみせた。ここでサッシャも燃料をセーブしながらクレバーにチャンスを狙う。安定したペースを保ちながら前とのギャップを縮めながらの走行。81周を終えて2回目のピットインでも素早いタイヤ交換と、短い給油時間およびドライバー交代せず、そのままサッシャがダブルステイントを敢行し、大きくジャンプアップを狙った。戦列に復帰したときにはドライバーの速さとクレバーな走り、ピット戦略の巧みさで4位に浮上してみせた。そして、表彰台をかけて3位23号車を追いかける展開に持ち込み、一進一退の攻防ののちに109周目に前をいく3位23号車に2秒差に迫ると表彰台を奪取すべく、サッシャは更に猛プッシュ。あと1秒差に追いついた時に、3時間経過の115周で惜しくもチェッカー。決勝は、8つポジションアップとなる逆襲の4位フィニッシュとなった。



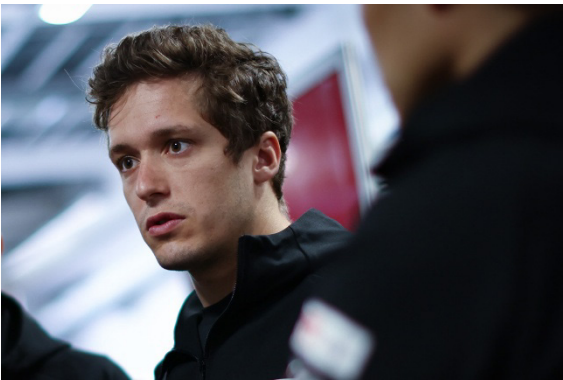
ドライバーポイントは8点（計14点）を獲得しランキング6位、チームポイントは11点（計20点）を獲得しランキング5位となった。今季セパン大会中止により、次戦は8月1日（土）・2日（日）に富士スピードウェイにて開催される。

■ 関口 雄飛



「今回もたくさんの御声援をありがとうございました！ほんの少しのコンディション変化で良かったり良くなかったりと難しい週末でした。しかし、クルマのバランスは走り始めから非常に良くて手応えはありました。決勝は最初ペースが苦しかったですがステイント終盤からペース良く走れ、前が空くとペースを上げられました。交代の前には本来のポテンシャルを出し切れたかと思っています。セパンが今季中止で次の8月富士戦まで間が空きますが、これまでのデータをしっかり見て、次の富士で結果を残せればと思います。引き続き、御声援よろしくお願ひ申し上げます」

■ サッシャ・フェネストラズ



「今回も最後もう少しで表彰台と思うと悔しいけど、決勝3時間の闘いはトータルでとても良かったと思う。我々のピットワークの速さは本当に助かっているし心強いね。今の一番の課題は昨年から続く予選順位を改善することが目標だ。決勝でのポテンシャルは向上しているし、今回も最終的に予選ポジションから8つ順位を上げて4位フィニッシュ。2戦連続トップ5フィニッシュでポイントを取れたことはうれしいね。クルマは戦う毎に速くなってきているから今後が楽しみだね。長いインターバルがあるけど、次の富士もガンバリマスので応援ヨロシクオネガイシマス！」

■ 監督 脇阪 寿一



「我々が選んだタイヤが予選のコンディションには合ってなかったと思いますが、週末を通して、クルマは速かったし、レースや戦略もコントロール下に有りました。予選12位から決勝4位まで追い上げられたのは嬉しいですが、次戦は予選上位から優勝を狙います。引き続き応援宜しくお願いします」

Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Best Time	SW
1	14	ENEOS X PRIME GR Supra	福住 仁嶺／大嶋 和也	* 1'26.254	16
2	36	au TOM'S GR Supra	坪井 翔／山下 健太	* 1'26.418	40
3	23	MOTUL Niterra Z	千代 勝正／高星 明誠	* 1'26.582	6
12	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	1'27.329	12

天候：曇り、コース：ドライ、Timeの*はQ2ベスト

Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	36	au TOM'S GR Supra	坪井 翔／山下 健太	3:00'31.710	115
2	14	ENEOS X PRIME GR Supra	福住 仁嶺／大嶋 和也	+8.786	115
3	23	MOTUL Niterra Z	千代 勝正／高星 明誠	+41.398	115
4	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	+42.460	115

天候：曇りのち晴れ、コース：ドライ、4.563km×115Laps(3Hours)

Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	36	坪井／山下	40
2	14	福住／大嶋	24
3	38	大湯／小林	16
6	39	関口／S.フェネストラズ	14

Point standings after Rd.2

Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	36	TGR TEAM au TOM'S	46
2	14	TGR TEAM ENEOS ROOKIE	29
3	12	TEAM IMPUL	21
5	39	TGR TEAM SARD	20

Point standings after Rd.2

Partners



情報参照先

- サード公式サイト : <https://www.sard.co.jp>
- [X](#) [Facebook](#) [Insta](#) [threads](#) [YouTube](#)
- SUPER GT : <https://supergt.net/jp>

■ 本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本 e-mail: media@sard.co.jp

SARD

株式会社 サード

〒473-0914 愛知県豊田市若林東町上外根50
TEL. 0565-53-1166 FAX. 0565-52-5482

www.sard.co.jp